

◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

＜6月＞ 業界の景況(前月比DI値)

景況感は、新型コロナウイルス感染症の5類移行から人流の回復は見られるものの、燃料や電気料金、諸資材高騰等を価格に転嫁できず収益状況は依然として厳しい。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

30以上	10～30未満	10未満 ～△10	△10超～ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		令和5年3月	令和5年4月	令和5年5月	令和5年6月
製造業	食料品製造業	 △ 20	 △ 25	 25	 25
	木材・木製品製造業	 △ 100	 △ 100	 △ 100	 △ 100
	印刷・出版 同関連製造業	 0	 0	 0	 0
	窯業・土石製品 同製造業	 0	 △ 33	 △ 33	 △ 33
	鉄鋼・金属 同製造業	 △ 33	 0	 △ 33	 △ 33
非製造業	卸売業	 △ 60	 △ 60	 0	 △ 40
	小売業	 △ 33	 △ 17	 △ 17	 △ 20
	商店街	 0	 0	 △ 33	 △ 33
	サービス業	 33	 14	 0	 29
	建設業	 △ 40	 △ 20	 △ 40	 △ 20
	運輸業	 0	 △ 67	 33	 0
	その他	 0	 △ 100	 0	 0

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	現在、組合として仙台味噌の海外輸出展開に力を入れている。後発組のため非常に難しいところはあるが、少しずつでも前進していきたいと考えている。先日、東北大学の教授に海外留学生向け仙台味噌を使った独自料理を作ってもらい、みんなで試食したうえで評価を競う料理コンテストを行った。ルーマニアの料理、モンゴルの家庭食バーベキュー料理など、斬新で美味しい料理が出来上がった。今後も2回、3回と開催を予定しており、非常に楽しみにしている。帰国後に少しでも仙台味噌を隠し味に調理して頂けたらと期待している。
水産練製品業界	景況は先月と特に変わらない。急な暑さの到来に売上げはあまりよくない。
酒造業界	5月に新型コロナの5類への移行や外国人観光客の受け入れが再開したこと等による日本酒需要の回復が期待されたが、前月比、前年同月比に大きな伸びは見られなかった。 1.8ℓ瓶をはじめとする新瓶の入手困難な状況が継続しているが、この状況が半年程度続くとの見方もある。新瓶からリユース瓶へ、グリーン瓶から茶瓶に切り替えるなどの方法により、辛うじて調達している事業者が出てきている。
木材業界	5月の県内住宅着工数は1,049戸と前月比3%の微増であったが、前年同月比では30%減と依然として低迷状態が続いている。製材品の主たる需要先となる持家の着工数に増加傾向が見えないため、原木価格の値下がりが続いており、製材品の動きも悪く当用買いが続いている。
印刷業界	イベント開催状況の好転、人流の増加により受注環境は好転しているが、人手不足感が出ている。 7月に開催を予定している総合印刷機材展（SOPTECとうほく2023）は、新型コロナ感染防止に係るガイドラインの撤廃を受けて通常開催となり、コロナ禍前の参加状況に戻りつつある。 価格転嫁に民間企業の理解が得られやすい環境にあるが、官公需は物件により応札価格に違いが見られ、事実上の据え置きもしくは値下げとなる物件もある。 また、後継者不在から、今後廃業する組合員が出てくるのではないかと危惧している。
生コンクリート業界	6月の生コン出荷量は、前月比29.7%増の約80.3千m^3と、3か月ぶりに大きく増加し、前年同月比で90.4%まで改善した。 地区別では、石巻地区で前年同月比を上回る状況が続いているが、気仙沼地区は3割を下回る厳しい状況が続いている。 販売価格は、原材料費等の高騰を踏まえた値上げが地区ごとに行われているが、収益改善には結びついていない。

コンクリート製品業界	5月の出荷量は前年同月比 101%、前月比 85%であった。累計は前年並みで低迷している。 (※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から 1 ヶ月遅れの報告です)
機械金属業界 A	売上高は、業種によりバラつきが見られ、全体としては停滞気味。新型コロナの 5 類移行後に社会経済活動は持ち直しつつあると思われるが、景況感に大きな変化は見られず、むしろ悪化傾向にある。
機械金属業界 B	原材料等の値上げや電気料金高騰による余波が続いており、主に製造業の収益改善は難しく非常に厳しい状況が続いている。更に昨年より顧客からの受注も減少している。
各種卸売業界	靴、アパレル卸は、自然災害や原価高騰による影響がみられた。 一方、建材卸は、商品（化成品）の値上げが続き困惑している。
再生資源業界	6月の国内鉄スクラップ市況は5月中旬からの強含みが継続しており、市中スクラップの発生も低調なことから、各地区で値上げが浸透し6月末も堅調感が残っている。しかし、製品環境が悪く、国内外の需要水準は低調だが、鉄スクラップ業者の在庫が薄いため需給がミートするかたちで相場が崩れにくい環境となっている。 古紙は新聞古紙、雑誌古紙、段ボール古紙ともに発生量の減少が止まらず、特に段ボール古紙の入荷が悪く、ミクロ経済の低迷が感じられる。
繊維卸売業界	暑さが前倒しで到来し、夏物の動きが早い。国内旅行やイベントなど外出する機会が戻り、徐々にデザイン物が動いてきた。 実用衣類はシニア向けが堅い。
ゴム製品卸業界	新年度となる 4 月、5 月は引き合いが多く良い感触があったが、6 月に入り一休みの様相。7 月、8 月は予想しにくく、今後の状況が読めない難しい中で、しっかり状況を確認し選択しなければならない。 業種でも忙しい所とそうでない所と二極化しており、一概に判断が難しい状態にある。しっかりと見極めることが必要だと思う。
鮮魚卸売業界	6 月～8 月までに 3 軒の店舗の廃業が決定した。新型コロナにより大型取引先が倒産し売掛金が回収できなかったことによる連鎖倒産など。新型コロナ貸付金の返済も始まり、経済打撃の影響が時間差で出始めている。6 月は昨年に比べ活発な取引を確認しているが、買付金額は新型コロナ前に比べだいぶ落ち込んでいるようだ。
鮮魚小売業界	入荷が少ない月であった。特にカツオが減少している。特大真鯛、ヒラメは多いが、魚屋の売上げにあまり結びつかない。生ウニは多く、価格も手ごろになった。魚種が少なく困った状況である。

青果小売業界	全国的に気温が高い日が続き、野菜、果実の生長が早まり前進出荷となっている。今のところ価格、入荷量に大きな変動は見られないが、出荷量減少に伴い徐々に価格が上昇すると思われる。 取扱高は前年比 102.8%、前々年比 101.8%となったが、1 日開市日が多かったのが要因である。 6 月末から続く九州地方での大雨もあり、今後の動向が心配である。 鶏卵は、報道のとおり価格が落ち着いてきた。1 日も早い回復が待たれる。
石油小売業界	原油価格は、産油国の減産により今後も高止まりが続く見通しである。政府から支給される補助金が段階的に縮小される中、ガソリン価格の値上がりは避けられず、消費者の負担が増加していくと予測される。
花卉小売業界	売上は、前年同月比 96.7%と前年をやや下回った。市場の比較的安定した入荷に対し、需要が低迷し活気のない月間取引となった。背景には一般生花小売店の店口販売が低調だったこと、加えて葬儀需要が落ち込み、生花の使用量が少なかったことが挙げられる。 6 月からの電力料の大幅値上げに原油高、物流配送料、肥料農薬、その他資材等の相次ぐ値上げにより、生産者はますます厳しい状況が予想される。コロナ感染症による制約が緩和されることに伴い、生花需要の活性化が望まれるところである。
商店街	(仙台地区 A 商店街) インボイス制度や IT 化への対応に追われている。 (仙台地区 B 商店街) 飲食店は新型コロナ前まで回復しておらず、中、大規模店舗ほど回復は鈍い。 物販店の組合員が突然閉店し、連絡が取れなくなった。 (大崎地区 A 商店街) 物価高、特に電気料金の値上げ問題は、やっと盛り上がりかけた巷の景気に水を差しつつある。 商店街の飲食店では、息切れし閉店するところもあれば、新たに開店する事業者もあり、混沌とした様相を呈している。
自動車整備業界	6 月になり各自動車メーカーから新車の工場出荷状況が開示され、徐々に新車の登録が回復しているようだ。各メーカーの販売価格値上げの発表もあり、受注の動きが気になるところである。 業界の基盤となる車検台数に大きな減少は無いが、機械工具や部品、材料等の仕入価格並びにエネルギー価格の上昇をユーザーに理解していただくことが重要な課題である。
廃棄物処理業界	5 月より新型コロナが 5 類に移行し、これまで自粛されていたイベント等の再開により、経済活動が活発になり景況が好転すると良いのだが、物価高や燃料費高騰を価格転嫁しにくい状況が続いている。

警備業業界	6月に入り公共工事が本格的に動き出したことにより、交通誘導警備員の需要が高まり、早くも警備員不足の声が聞かれる。人件費のベースアップ等底上げが喫緊の課題であることはわかっているが、その原資となる警備料金がなかなか上がらないことで警備会社オーナーの思い切った待遇改善の実行にブレーキをかけているようだ。
湾岸旅客業界	売上は、ゴールデンウィークがある前月より減少したが、予約は増えており、緩やかに新型コロナ前に戻っている感触がある。前年同月比も新型コロナが5類に移行した影響で増加している。気を緩めず、安全・安心を第一に遊覧サービスに努めたい。 感染症対策は、これまでよりやや緩和した最低限の対策を行っている。
ホテル・旅館業界	着実に新型コロナ前の状態に戻りつつある。しかし、人手不足対策、仕入価格高騰を受けた宿泊単価への反映等の課題は大きくなっている。
建設業界	東日本大震災の復興需要や令和元年東日本台風災害の復旧も収束し、県内公共事業費が激減状況にあり、加えて民需も低迷していることから、地域建設業にとっては事業量の確保が最大の課題となっている。 また、建設業における罰則付き時間外労働規制が来年に迫っており、働き方改革も進めなくてはならず、人材確保や賃金確保、上昇への対応にも苦慮している。
硝子業界	昨年から続く材料価格の値上げ分を工事請負価格に転嫁しにくくなっている。全体的に工事量も減少傾向にあるのだが、震災前の過度な価格競争は避けたい。
板金業界	6月の景況は、リフォーム、大型物件ともに請負金額、工事金額の値上げを要因として、売上、収益ともに前年、前月を上回った。
タクシー業界	利用客、実車キロ数、輸送人員及び輸送収入ともに前月、前年同月より好調であった。 LPG 価格は、前月よりさらに値下がりし、価格上昇が続いていた令和3年10月と同レベルとなった。前年度比では約16%の安値となっているが、価格上昇に転じた令和2年6月との比較では1.4倍の高値となっている。ガソリン価格の上昇率との開きが若干縮小した。
軽自動車運送業界	地域によって状況は異なるが、動きが全体的にあまり良くない。秋口にスタートするインボイス、2024年問題の対応に追われている。
倉庫業界	前月比は、入在庫量、在庫量、売上高(収入)ともに減少した。品目別では窯業品が入在庫量ともに増加したが、他の品目は在庫量含め変動がなかった。 一方、前年同月比では、入庫量及び在庫量は減少したが、出庫量、売上高(収入)は微増となり、品目別では、金属製品・機械、窯業品、食料工業品及びゴム製品等の雑工業品の入在庫量が増加した。他の品目は入在庫量、在庫量ともに大きな変動はなかった。